

# 市政この1年を振り返る

## 新たな時代のまちづくり

平成30年2月5日に友田市政の1期目がスタートし、1年が経過しました。この1年間のまちづくりの主な動きを振り返り、松浦市のこれからを考えます。

### 市長就任から1年を振り返って

昨年2月5日、合併後12年にわたり市政を担われた友田前市長から本市の舵取りを受け継ぎ、1年余りが経過いたしました。この間、西九州自動車道の整備促進、松浦魚市場再整備事業及び独立行政法人地域医療機能推進機構（JCHO）による松浦中央病院（仮称）の開設など、本市にとって重要な

基盤となるこれらの事業の成果を1日でも早く市民皆さまに享受していただけるよう、取り組んでまいりました。

国や地方においても、人口減少や少子高齢化が大きな課題となり、厳しい行財政運営を強いられる時代にあつて、市長就任当初から

本市の限らない発展と市民福祉の更なる向上を目指し、これまでの経験によって得られた知識や経験、国や県との間で築いた人脈等を活かしながら、私の基本姿勢である「市民との対話」を重

ね、わかりやすい政策のもとで市政運営に努めてきたところです。

### ハード面の整備

この1年間で振り返りますと、ハード面では、今福児童遊園（写真①）のリニューアルを皮切りに、農水産物直売施設「とれたて福の島」（写真②）、更には、松浦魚市場事務所棟（写真③）や松浦市野球場「青のまち松浦スタジアム」（写真④、⑤）などの

重要プロジェクトが実現し、確実な成果として、市民の皆さまにご利用いただくことができました。特に、

西九州自動車道調川インターチェンジから松浦インターチェンジ間の開通（写真⑥、⑦）は、生活の利便性向上はもとより、経済発展にも大きな成果をもたらしたものと捉えております。

また、本年12月の営業運転を見据えて、九州電力株式会社松浦発電所2号機の建設も着々と進められておりますし、JCHO松浦中央病院（仮称）も2年後の開設に向けて着工されており、この事業と関連が深い本市の（仮称）市民福祉総合プラザも来年3月末の完成に向け、動きが顕著になってまいりました。

### ソフト面の整備

一方、この一年はソフト面でも大きな動きがありました。遡ること30年前、鷹島モンゴル親善協会の設立



ともだ よしやす  
友田 吉泰  
松浦市長





を祈念して埋設された「元寇カプセル」が昨年8月に開封され（写真⑧）、当時の歴史を物語る貴重な資料が長い年月を経て公開に至りました。また、10月には、全日本さば連合会の全面的な協力によって、九州初開催となる年に一度のサバの祭典「鯖サミット」（写真⑨）を本市で開催し、多くの来場者で賑わいました。

昨年の12月には、松浦高校陸上競技部が長崎県大会を制し、実に6年ぶりとなる全国高等学校駅伝競走大会において、見事に都大路を駆け抜け、勇気と感動を与えてくれました（写真⑩）。更に、私が掲げた木の温もりを感じながら、豊かな暮らしにつなげる「木育」については、構想から約1年後の2月に「木育キャラバン」（写真⑪、⑫）を開催し、ウッド・スタートへの弾みをつけることができました。「アジフライの聖地」に向けた取り組みについては、福岡市内でのイベント開催など、多くのメディアからも後押しを受け、確実に「松

浦」の知名度向上につながっていることを実感しています。また、市内の飲食店においても当初の加盟20店舗から広がりを見せており、本年4月27日に予定している聖地宣言に向け、気運が高まってまいりました。

#### ■今後の見通し

本年は、5月1日の皇位継承によって、新しい元号に改められることから、平成と新たな時代を結ぶ大きな節目の年となります。

本市においては、オーストラリア・マツカイ市との姉妹都市締結から30周年の節目となる年でもあり、これまでの交流の歴史を振り返るとともに、更なる絆の深まりを願い、マツカイ市からの親善訪問団をお迎えして記念事業を開催したいと考えております。

そして、本年は、第2次総合計画を策定する重要な年と位置付けており、昨年から4回にわたって開催した松浦未来会議（写真⑬）での貴重なご意見を踏まえるとともに、より地域の実情に沿ったまちづくりの実現に

向け、小学校区を対象とした地域版未来会議を開催することとしております。新たな時代においても、引き続き市民皆さまとの対話を基本姿勢として、市政の運営に努めてまいりたいと考えておりますので、市民皆さまのご理解とご協力をよろしくお願い申し上げます。

